

豊かな感性を育む道德の授業

— 第6学年「自分に対する誠実さ」の実践を通して —

吉 浦 公 子

1. 豊かな感性を育む道德の授業

(1) 自己を高める評価力の育成

本校では、これまで「個が生きる授業」を求めてきた。「個が生きる」とは、子どものよさが生き、子どもが主体的に生きようとするところである。道德教育は、児童一人一人が人間としてよりよく生きる力を身につけ、心豊かに生きることを目指している。つまり、本校のめざす「個が生きる道德教育」は、道德のねらいそのものであるととらえることができる。

この考え方をもとに、昨年度は「自己を高める評価力の育成」を研究テーマとして次の点を中心に進めてきた。

道德の時間における自己を高める評価活動としては、次のような観点を設定した。

- ① 一人一人は、自己のめあてを設定（把握）することができたか。
- ② 一人一人は、学習のめあてを能動的に追求することができたか。
- ③ 一人一人は、学習のめあてに照らして自己を振り返り、新たなめあての設定や活動につなげていくことができたか。

上記①については、授業に対する真剣さ、②については、参加の主体性、友だちの考えに対する受容的態度、自己を高めようとする姿勢等を見取っていく。③については、人間のよさや友だちのよさ、自分自身のよさの理解とした。

道德の時間に、自己評価の場を設定したり、自己評価の習慣を身につけさせるだけでは、形式的なものに留まり、十分に自己を高めていくことは難しいと考える。つまり、①児童や児童を取り巻く環境に対する十分な実態把握、②児童が自分なりに見通しをもつことができる活動や授業づくりを大切に「自己を高める評価のできる活動や授業づくり」を重視してきた。

(2) 豊かな感性を育む道德の授業

道德の時間の目標は、道德的実践力の育成を図ることである。この道德的実践力の育成を基盤とした道德教育を進めることにより、道德的実践のできる児童が育つと考えられる。この道德的実践で重要となるのは、知性ととともに感性である。つまり、知性の考えた方向に行動しようとする感性を育む教育が必要となってくる。

そこで、本年度はこれまでの実践研究を継続するとともに、新たに「豊かな感性を育む道德教育」を研究テーマとして、豊かな感性の育成に取り組むことにした。豊かな感性を育む授業づくりの重点事項として次の点考えた。

- ① 道德の授業に向けての雰囲気づくりが行われていること
- ② 児童がすでにもっている見方・感じ方を意識化させながら、学習に入ることができること
- ③ 資料の中の場面に児童が自分の思いや豊かな想像をもって入り込み、感じたことを自由に表現できる場を保障されていること
- ④ 授業の中で追求してきた道德的価値について、授業後も児童の心が豊かにふくらむような終末であること

以上の重点事項をもとにして、第6学年の道德の授業を実践した。なお、昨年度の成果も踏まえて、自己を高める評価力を育成する場も合わせて位置づけた。次に示すのはその実際である。

2. 指導事例 第6学年「自分に対して誠実に」

(1) 指導にあたって

①授業設計の商店

本主題は、学習指導要領第5学年及び6学年、1の(4)「誠実に明るい心で楽しく生活する」に該当する内容である。

本資料「のりづけされた詩」は、主人公の道徳的な行為を描いている資料である。学級文集に掲載するための詩に悩んだ主人公が、他人の詩の一部を盗作するという道徳的な問題にかかわる状況と、その後作品を作り直した主人公の道徳的な行為がわかりやすく描かれている。導入において、日常生活の中での道徳的価値に関わる事例を提示して、ア授業に向けての雰囲気づくり、イ児童がすでにもっている自分の見方・感じ方を意識化して、学習に入ることができるように工夫する。なお、アの雰囲気づくりにおいては、本時の前の学校生活の場面においても、伏線として意図的に計画し、学習に向けていく。

次に、本資料での道徳的な問題にかかわる状況を役割演技によつて的確に把握させ、その後、作り直した主人公の行為の背後にある価値を考えさせる活動の中で、ウ資料の中の場面に児童が自分の思いや豊かな想像をもって入り込み、感じたことを自由に表現できる場を工夫していく。終末においては、エ授業の中で追求してきた道徳的価値について、授業後も児童の心が豊かにふくらむように、今までの自分はどうかであったかを見つめさせる発問を工夫するとともに、授業後の指導も位置づけていく。また、児童一人一人の発言を受け止めて、各児童の理解に努めたい。さらに、エの一環として、昨年度の研究テーマ「自己を高める評価力の育成」の継続研究として、本主題の内容だけでなく、児童自身が授業における関心・意欲を評価する場面を設定し、本時を振り返るとともに、次時へのめあてを持たせる場とする。

読み物資料：「のりづけされた詩」(「小学生のあゆみ 6年」青葉出版)

(2) 授業の実際

① 本時の目標

誠実に行動し、明るい心で楽しく生活しようとする態度を育てる。

② 評価の観点

道徳的心情	誠実に行動し、明るい心で楽しく生活しようとする行為に共感する。
道徳的判断力	自分に対して誠実に行動することの大切さがわかる。
実践意欲・態度	自分に対して誠実に生きようとし、そのことを外に向けて発揮しようとする意欲をもつ。

③ 授業の流れ

ア 学習に対する雰囲気をつくる場(授業に入る前、本時の学習過程1)

学習に対する雰囲気をつくる場としては、授業に入る前の日常生活の中でと、授業の導入において、意図的に設定した。

(ア) 授業前の場の設定

学習に対する児童の意識を高め、授業の中で一人一人の見方・感じ方を意識化させるための伏線として、児童の日常生活の中で実際に本時の道徳的価値に関わる場面を、意図的ではあるが、自然な形で取り上げた。

次は、授業前の日常生活で取り上げた出来事の一つである。

——給食が終わり、昼の休憩が終わって教室に戻ってくると、自分の机の上に空の牛乳パックが置かれている。確かに、自分は確かに片付けたはずである。パックを置いた人は、自分で片付けて欲しいと呼びかける。しかし、誰のものかどうしても分からない。

このような状況が、学級で起こった際、本時の道徳的価値の視点から、児童の見方・感じ方を出す場を意図的に設定した。以下は、その際の、教師の働きかけと児童の反応である。

T このパックを置いた人は、なぜ、どの様な気持ちで置いたのでしょうか。

牛乳パックを置いた人と、置かれた人になって考えてみましょう。

(児童は、2人組みになり、一人がよそを向いている時に、もう一人はそっと机の上に、牛乳パックを置く動作をする。)

児童の活動 (あ)

C あら、(机を見て) この牛乳パックは、誰の？ (隣の児童を見て) ねえ、このパック誰のかわらない？

C 知らないよ。僕は、遊びに行く前に、片付けたからな。

C ほんとに、嫌な感じだわ。私は、ちゃんと片付けたのに……。仕方がないわ。(頬をふくらませて、パックを捨てに行く動作をする。)

C (捨てに言った様子を見ながら)、うまく行った。作戦成功……。

児童の活動 (い)

C だれだ、僕の机の上に牛乳の空パックを置いたのは？ (怒っている表情)

C 誰かしら。きっと自分で捨てに行くのが面倒になったのよ。

C 腹が立つな。許さないぞ。誰が置いたかわからないか。

C 知らないわ。私は、さっきまで遊びに行っていたから。

C (かなり怒っている様子で) 誰だ。分かったら、絶対に許さないから。(机を叩く。)

C あっ、そうだ。用事を思い出した。行かなくちゃ……。本当に、誰かしらね。

(立ち去ろうとする)

C 僕は、絶対に捨てに行かないからな。

(イ) 本時の授業の中での場の設定

本時の授業の中では、学習過程1において、次のイの役割演技をさせることにより、自由な雰囲気をつくっていった。(活動の様子については、イの項を参照)

イ 一人一人の見方・感じ方を意識化させながら、学習に入る場 (学習過程1)

導入で、日常生活での、自分に対する誠実さに関わる事例を提示し、役割演技を取り入れ、自由な雰囲気の中で、見方・感じ方を意識化させながら、学習に入るようにした。

学習過程

1 教師が示した日常生活の中での出来事についての自分の思いを発表する。

2 資料「のりづけされた詩」を読んで、状況を把握する。

(1) 和美はなぜ詩集の中から題名と出だしの1行を書き写したのだろう。

・どうしても出だしの2行がうまく表現できなかったから。

・学級文集によい詩を載せたかったから

(2) 作品を提出した後、和美が、胸が締めつけられる思いがしたのはなぜだろう。

次に示すのは学習過程1の実際である。

T (黒板に「無人販売所」「1袋500円」のカードを添付する)

果物の無人販売所です。どんな果物が見えますか。

C 大きなりんごが2個。

C ぶどう。マスカット。

C メロン。

(「500円でメロンが買えるの?」という声がかかる。)

T みんなお腹がすいています。今もっているのはバス代150円だけです。

- ・自分の詩の一部が他の人の詩を写した
ものだから。
- ・書き写したところを友だちにほめられ
たから。

3 詩を作り直した和美の気持ちについて話
しあう。

(1) 和美は、なぜ先生にこれまでのことを
打ち明ける決心をしたのだろう。

- ・この暗い気持ちからのがれたい。
- ・自分に対して正直になりたい。
- ・このままでは、きっと後悔する。

(2) のりづけを終えたとき、和美はどの様
な気持ちになっただろう。

- ・心が明るくなった。
- ・作り直してよかった。

4 誠実な行動について、自分の生活を振り
話し合う。

(1) 誠実に行動した（できなかった）とき
どの様な気持ちになった。

5 本時の学習を振り返る。

C 150円払って一部もっていけば？

C 僕は、歩くのが大変だから、バス代は払いたくない。

C じゃあ、黙ってもっていく。

(みんな、自分の思いを自由に近くの児童と口々に
話し合い始める。暫く、児童の喧嘩を聞きながら、
そのまま時間をとる。)

(2人組みになり、代金を払おうとする人と止める
人を交代でやってみる。次はある2人組の会話)

C 2人分のバス代、300円を箱に入れてもらって
きましょうよ。

C 家まで歩くのは大変だよ。バスで急いで家に帰ろ
うよ。それに500円だから、200円足りないじゃない。

C じゃあ黙ってもらって、バスで帰ろうよ。

C 見つかったら叱られるよ。

C じゃあ、一人で帰れば。私は今、どうしてもあの
みかんが食べたいの

C やめろよ……。ばれたら、大変だぞ。もう僕はし
らない。

(止める側の児童は、ため息を付きながら去ってい
く。)

ウ 資料の中の場面に児童が自分の思いや豊かな想像をもって入り込み、感じたことを自由に
表現する場（学習過程2）

資料の中の場面に児童が自分の思いや豊かな想像をもって入り込むことができるように、(ア)うま
く詩がつくれないので、詩集の詩を書き写した時の気持ち、(イ)友だちにほめられた時の気持ちを押
さえた。

(イ)では、自分の行為に対して、気がとがめ始めている主人公の心情に共感させるために、2人組
で和美と友だちの会話の場面を行わせた。

(児童は、席の隣同士で2人ぐみになり、和美と友だちの役になっている。)

T 和美さんの詩を読んでいるね。どんな詩ですか。

C とてもよい表現です。

C 最初のところなんか、すばらしいな。

C 自分と同じ6年生の詩だとは思えない。

T では、続けてください。

(次に示すのは、児童AとBの2人組の様子である。)

C うん、いい詩だな。(感心しながら独り言を言う。)

C (うつむくが、ときどき隣で詩を読んでいる友だちの方に目をやる。)

(詩を鑑賞する児童と読み終わるまで待っている児童の2人とも黙ったままでしばらく沈黙が続
く。)

C 和美さん、いい詩だね。まるで詩集に載っている詩のようだ。

C そ、そうでもないよ……。あっ、私、用事を思い出したわ。急いでかえらなくっちゃ。じゃあ
ね。バイバイ。

C あわてて、いったいどうしたんだろう。

(この2名の表現を見て、他の児童に自由に発言させた。)

C ほめられれば、ほめられるほど、困っているんじゃないかな。

C ときどきしたから、用事を思い出したなんて、ごまかしたとおもう。

C ぼくも、都合が悪くなったら、用事を思い出したって消えてしまう。

T では、さっき和美の役をやったAさんに聞いてみましょう。

C ばれるかもしれないと、心配でした。それに「詩集に載っているみたい」といわれて、どきっとして、逃げ出してしまいました。

エ 授業の中で追求してきた道徳的価値について、授業後に向けて、児童の心が豊かにふくらませる場

(ア) 授業における意欲・態度について児童自身が振り返り、今後の学習につなぐ場(学習過程5)

これは、昨年度の研究テーマ「自己を高める評価力の育成」の成果を踏まえて継続したものである。学習内容だけでなく、児童が意欲・態度の側面について自分自身で振り返る場を設定した。これは、本時のみでなく、毎時間の学習に位置づけた。

自己評価の観点としては、次の4項目を観点とした。

- ・(気付いたこと・感じたことを)自由に話せたか。
- ・(登場人物・自分の心の中を)真剣に考えたか。
- ・(友だちの話を)しっかり聞こうとした。
- ・(人間・友だち・自分のよさを)一生懸命見つけようとしたか。

次は、児童Aの自己評価である。

「二人組で表現をした時、となりのB君はすごく自分の考えを出せていました。私はみんなにどう思われるか心配で、はずかしさもあったのですが、B君が手をあげたので、みんなの前で二人で発表して、かなり自信ができました。次の時間のめあては、もっと心をひらくことです。」

(イ) 授業後の日常生活の中で、一人一人の意識を豊かにふくらませる場

授業の約2週間後、前述の「ア 学習に対する雰囲気をつくる場の(ア)授業前の場の設定」で行った、児童の日常生活の中で実際に本時の道徳的価値に関わる場面を再度取り上げ、自分の見方・感じ方を見つめる場とした。事前のアの活動では、二人組で役割演技を用いたが、ここでは一人で黙って、思い・考える活動とした。

ここでは、道具は何も用いずに、児童一人一人が次の動作を行うことにした。

- ① 牛乳を飲み終える。
- ② 空の牛乳パックを教室の前にある机の上に置く。
- ③ 机のところに来た教師の動きをみる。

教師の動き；牛乳パックを見つける。辺りを見渡す。パックを見つめる。パックを捨てに行く。上記①②において、各々の児童は、ひとりごとをつぶやいたりしながら、表現した。全員が席についたところで、教師が③の活動を行った。ここでは、教師は無言で上記の動きを行い、児童は黙ってそれを見つめるようにした。また、教師の動きがすべて終了した後、何も発問せずに、そのまま、沈黙の時間をとった。

(3) 結果と考察

① 児童がすでにもっている見方・感じ方を意識化させ、学習に入る場について

本時では、各自の経験の想起ではなく、無人販売所という設定で、代金を払わない人とそれを止めようとする人の2人組になり相互に役を入れ替わりながら、全員で演じた。特に止める側の理由

として多かったのは、「人が見ているかも知れない」「見つかったら叱られる」であった。しかし、この理由で止めようとした児童は、相手の児童の「今は、誰も見ていない」あるいは「もし、誰にも見つからなかったとしたら」という反論に対して、相手を説得できない場合が見られた。この役割演技は、席のとなり同士で、全員が一斉に行ったため、どの児童も自由に表現できたと思われる。また、相対する2つの立場を両方経験するを通して、ア 自分ならばどちらの立場をとるか、イ「やってはいけない」「よくない」行為であるはずなのになぜ相手を十分説得できないのだろうかという点について、自分なりに自分の見方・感じ方を意識することができたように思われる。

この学習過程1での役割演技を、学習の終わりにもう一度取り上げ、その変容を児童に実感させていくことも今後検討してみたい。

② 資料の中の場面に児童が自分の思いや豊かな想像をもって入り込み、感じたことを自由に表現できる場について

ここでは、役割演技によって、盗作した詩を友達が読み終えるまで隣で待っている時の気持ちと、友達に賞賛された時の気持ちを考えさせた。前者は、学習過程1と同様に、「友達が気付いたらどうしよう」という不安な気持ちとして捉えたが、後者の方は、「見つからなくてよかった」という安堵感はあるのに、気まずさ・後ろめたさを実感できたようである。この「見つからなかったのに、なぜか気分が重くなった」気持ちをもつことにより、次の学習過程3でのねらいとする価値の追求が深まったように思われる。

③ 授業の中で追求してきた道徳的価値について、授業後に向けて、児童の心が豊かにふくらませる場について

ア 授業における意欲・態度について児童自身が振り返り、今後の学習につなぐ場（学習過程5）

学習の最後に本時の価値の自覚を兼ねた内容に対する自己評価とともに、学習に対する意欲・態度の側面についての自己評価を行った。この評価を継続して位置づけることにより、児童は次の道徳の時間に対する意欲・態度の側面でのめあてを設定できるとともに、教師もその児童のめあてを把握した上で個に応じた適切な支援がよりしやすくなった。

自己評価にあたっては、現在、前述の4つの観点を児童に提示している。この観点が適当であるかについては今後も検討していきたい。

イ 授業後の日常生活の中で、一人一人の意識を豊かにふくらませる場

本実践では、道徳的価値に関わる内容について、授業の後、児童が沈黙の中で自分と対話し、自分なりに自分の見方、感じ方を見つめていることがわかる。今回は、教師が場面を設定したが、より自然な形で、授業後の日常生活において感性を豊かに育む場づくりは、今後の課題である。

私は、先生が牛乳パックを捨てるのを見て、悪いことしたなと思いました。これからは、もうしないとおもいます。でも、見つけて、捨てたのが先生でなくて、喧嘩中の憎いと思っている相手だったらどうだろうと考えました。素直に悪かったと思えないかもしれない。
なんか、私って、こんなところがずるい気がします。